



江崎 貴大 議員
無会派

問 共助を強くする取組は

答 繋がりが生まれる社会を目指す



問 孤独・孤立対策の担当部署は。

答 (健康福祉部長) 福祉課が主体となり担当課と連携。

問 庁内連携体制は。

答 各課横断的な取組が必要。

問 来年5月の孤独・孤立対策強化月間に向けては。

答 市ホームページ等においてロゴマークを活用し周知を図る。

問 本市の社会資源リストの今後は。

答 情報の一元化、潜在的な地域資源の把握について協議していく。

問 二十歳の集いの実行委員との意見交換でどのような声を聴き、どのように捉えているのか。

答 (市長) 「弥富は三つの鉄道があり利便性が高いから将来も住みたい」「南部は交通の便が悪く子育てでも大変そう」。住みたいと思えるような施策を立案するために、重要な機会と考える。

問 高校や大学、専門学校に通う子への奨学金制度導入の考えは。

答 (市民生活部長) 国の動向を注視する。

問 多様性と包摂性をどのように考慮しているのかも含め、市長の総括を。

答 (市長) 相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会を目指し、誰もが安心して暮らせる優しいまちづくりを推進していく。

問 地球温暖化が進む中での対策は

答 熱中症の情報を発信していく

問 本市の熱中症搬送者数は。

答 (健康推進課長) 令和5年度8月末現在33件。

問 熱中症発症の要因分析は。

答 高齢者は体の反応が弱くなるため、自覚がない。エアコンを所有していない、適切に使用していないことも一因。

問 空調を利用しない高齢者への注意喚起など対策は。

答 (介護高齢課長) ふれあいサロンや福寿会の活動時に、出張講座や、講話。緊急通報システムの利用者には、熱中症の注意喚起アナウンスが流れる。

問 熱中症予防のための休憩所の設定は。

答 (環境課長) 冷房設備を有する施設を「クーリングシェルター」に指定する。

問 屋内運動施設の空調設備設置状況は。

答 (教育部長) 運動を中心に行う施設には整備されていないが、多目的施設には整備。

問 学校体育館への空調設備設置の考えは。

答 学校体育館には設置する予定はない。

問 特別教室への空調設備設置の今後は。

答 (学校教育課長) 優先順位を精査し対応。

問 市長の総括を。

答 (市長) 熱中症は命に関わる場合もあり、広報、ホームページ等を活用し、情報を発信していく。

